

コバエ類とその対策

●文・写真:アベックス産業㈱
代表取締役 学術博士

元木 貢

コバエ類はすぐに繁殖する

繁殖場所があると産み付けられた卵は1～2週間もすると成虫になります。成虫の寿命はせいぜい1ヶ月ですが、その間、多数の卵を産み続け繁殖してしまいます。

ビルにおける主な繁殖場所

(1) 汚水槽や雑排水槽

これらの水槽の表面や壁面に腐敗物が溜まっているとチョウバエやノミバエなどが発生します。

(2) 廉房の排水溝やグリストラップ

排水溝の底、壁面、掃除が行き届かない床、とくに厨房機器の下部などで有機物が蓄積し、微生物が繁殖してヘドロ状になった部分から、チョウバエやノミバエなどが発生します。グリストラップが清掃されず表面が腐敗してくると、表面や壁面の腐敗部分から発生します。

(3) 腐った野菜や果物、糠味噌や酢など発酵物

シヨウジョウバエなどが発生します。

(4) 動物の死骸

ネズミや昆虫の死骸からは、ノミバエなどが発生します。

(5) 観葉植物の肥料

クロバネキノコバエなどが発生します。

(6) 水槽など

ユスリカが発生します。

コバエ類への対策

(1) 捕虫器による監視

コバエ類は光に誘引されます。紫外線ランプで誘引し、粘着テープで捕獲する捕虫器を



▲粘着式捕虫器

(2) 清掃

污水・雑排水槽、床、排水溝やグリストラップが腐敗物で汚れているとコバエ類の絶好の発生源となります。薬剤の効力は一時的ですので、清掃が基本です。その際は、壁面や蓋の下部などの汚れも除去する必要があります。排水管の内部も汚れて発生源になることがあるので、排水管洗浄も定期的に行なうことをお薦めします。

(3) 食物管理

野菜や味噌などの醸造品は冷蔵庫に入れることもあるか、密閉した容器に保管します。

おわりに

コバエ類は屋外に普通に生息し、建物内部に絶えず侵入してきます。腐敗物など発生源があれば1～2週間で繁殖してしまいます。殺虫剤は一時的ですので、清掃と食品の除去が基本となります。捕虫器を設置して常時監視し、捕獲することが必要です。設置しておくとビックリするほど捕獲でき、食品への混入やお客様の不快感を防止することもできます。

(了)

■主なコバエ類



◆チョウバエ類

(成虫の体長は2～5mm。体色は灰色で、体、翅の表面は毛で覆われている)



◆ノミバエ類

(体長は1～5mm。体色は褐色で、胸部は黄褐色で小剛毛を密生している。翅は透明。脚は発達しており、後脚が特に幅広い)



◆ショウジョウバエ類

(体長は約2～4mm。体色は黄褐色～黒色、複眼は赤色。体は黄褐色、翅は透明)



◆キノコバエ類

(成虫の体長は2～4mm。体色は暗褐色から黒色で翅は黒褐色)

■参考文献

- 元木貢、佐々木健、2015.集合住宅における飛翔昆虫調査、都市有害生物管理学会講演要旨集。
- (公社)東京都ベストコントロール協会ホームページ「害虫相談」。
- 害虫スライド集、1999。(公社)日本ベストコントロール協会。
- 森谷清樹、服部耕作編、1988.不快害虫とその駆除、日本環境衛生センター、川崎。